

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
「アジア・アフリカの現代的諸問題の解決に向けた新たな連携研究体制の構築」
特任研究員募集要項

平成 28 年度よりスタートした「アジア・アフリカの現代的諸問題の解決に向けた新たな連携研究体制の構築」プロジェクトのなかの言語学系事業「多言語・多文化共生に向けた循環型言語研究体制の構築」(以下、LingDy3)では、とくに記述言語学・言語ドキュメンテーション分野において、自らの専門性を活かしながら、研究成果発信および事業の企画・運営を担当する業務を行い、研究活動・社会連携活動を支援していただける方を募集します。個別言語の記述・ドキュメンテーション研究、現地還元研究及び類型論的研究などに関する専門的知識をお持ちの方で、本プロジェクトの共同研究活動に関心をもち、意欲的に職務に取り組んでいただける方の応募を期待します。

LingDy3 事業の概要については添付の資料をご覧ください。

1. 応募資格

以下の条件をいずれも満たす方とします。

- (1) 記述言語学・言語ドキュメンテーションに関する専門的知識を有する方。
 - (2) 本プロジェクトの研究活動に関する内容と成果を的確に把握し、その成果発信を通じた社会連携活動に貢献する意欲のある方。
 - (3) 博士の学位を有するか、博士の学位取得者と同等の学識を有する方。
 - (4) 採用時に常勤の職に就いていない方。
- ※ (独)日本学術振興会の特別研究員との兼任はできません。
※ 国籍は不問です。ただし、業務に支障のない日本語能力が必要です。

2. 勤務条件

- (1) 本学特定有期雇用就業規則及び給与規程に定めるところによります。
- (2) 勤務時間は週 38 時間 45 分(裁量労働制 1 日 7 時間 45 分みなし労働)
- (3) 給与は月 25～30 万円前後支給されます(経歴等により増減あり)。通勤手当は支給されます。賞与、扶養手当、住居手当、赴任手当等は支給されません。雇用保険・社会保険の適用あり。
- (4) 雇用期間は平成 28 年 12 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで(ただし更新の可能性あり)

3. 職務内容

- (1) LingDy3 の事業に関する研究成果発信のための広報活動
- (2) LingDy3 の事業を着実に遂行するための各種企画の立案および運営業務

(1) に関しては、本プロジェクトが開催する各種イベントの告知・広報に加え、本プロジェクトの活動とその成果を研究者および一般社会に向けて効果的に発信するための方策を検討し、実行することが求められます。これらの業務のため、ウェブページ(和文・英文)の作成・更新作業や、チラシ・ポスターなどの作成ができる方(あるいはそれを習得する意欲のある方)が望ましいです。

(2) に関しては、言語学および一般社会のニーズを調査し、それに応じたかたちで共同研究やセミナー、ワークショップ、シンポジウムなどの企画立案、実施、運営に参画していただくことになります。

4. 募集人数 1名

5. 提出手続

提出書類は、下記「10. 問合せ先」まで書留にて郵送してください。

締切日は、平成 28 年 7 月 14 日(木)消印有効とします。

なお、封筒に『LingDy3 特任研究員 応募書類在中』と朱書きしてください。

6. 選考方法

第 1 次審査として書類審査を行い、第 1 次審査合格者を対象に面接
(面接は 7 月 30 日(土)の予定。面接の際の交通費は本人負担とします)

7. 選考結果通知 平成 28 年 9 月末(予定)

8. 採用予定年月日 平成 28 年 12 月 1 日

9. 提出書類

- (1) 履歴書(市販横書き用紙に準じるもの、写真貼付)
- (2) 主要研究業績一覧
- (3) 主要論文等 3 点以内(コピー可。返却希望者は返信用封筒に住所・氏名を記入し、切手を貼付すること。宅配便での返却は本人負担とし、封筒に料金着払いのラベルを貼って同封すること。)
- (4) 研究・業務経歴書(フィールドワークの経歴も含めた研究経歴、および研究会・ワークショップ・シンポジウム等研究活動の企画運営や広報に参画した経歴について、合計 1,200 字程度で書いてください)
- (5) 提案書(LingDy3 のウェブサイト <http://lingdy.aacore.jp/jp/> を参照したうえで、よりよい成果発信のための改善案を自由に書いてください。文章だけでなく、必要に応じて、図表やイラスト等資料を添付してもかまいません)
- (6) 参考意見をお聞きできる方の氏名と連絡先(2 名以内)
- (7) 返信用定型封筒(応募者の住所・氏名を記載のうえ 82 円切手を貼付)

10. 問合せ先

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 共同研究拠点係

(質問については、必ず文書または e-mail でお願いします。電話によるお問い合わせにはお応えできません)

e-mail: aajimu@tufs.ac.jp

【添付資料】

「多言語・多文化共生に向けた循環型言語研究体制の構築」(LingDy3) 事業の概要

【目的】

LingDy3 はアジア・アフリカ言語文化研究所がこれまで研究対象としてきたアジア・アフリカ地域を中心に、各地の研究機関だけでなく現地の少数言語・方言コミュニティとも連携することで、コミュニティが言語・文化の多様性を保持するために、自ら言語記録活動に関与し、その活動を通じて諸研究機関のさらなる研究の進展を促す循環型の言語研究体制を構築することを目的とする。また、国立民族学博物館と連携した資料公開により言語資源の文化遺産としての再定義と一般社会への啓蒙を行う。さらに国立国語研究所との連携による日本の地方大学と方言コミュニティに対する支援、言語資源をもとにした共同研究活動などを通じて、AA 研がこれまで培ってきた研究実績を日本社会に還元する。具体的には、以下の諸事業を統合的に実施することにより、調和のとれた多言語・多文化共生社会の実現を支援する。

【LingDy3 事業内容】

- a. 言語の記録・保存に関する共同研究
 - (1) 多言語並存の実態把握とニーズの掘り起こし
 - (2) 言語記録活動支援を目的とした共同研究の展開
 - (3) 蓄積された言語資料を利用した、言語多様性に関する共同研究
- b. 言語記録活動に従事する次世代の研究者・現地コミュニティ人材の育成
 - (1) 現地研究機関・国内連携機関・現地コミュニティとの連携による、若手研究者・現地コミュニティ人材の育成・トレーニング
 - (2) 共同研究・教育活動の実践的経験を積むための機会の提供
- c. 循環型の言語研究体制を支える技術開発
 - (1) 言語記録活動支援のためのツール開発
 - (2) 言語資源蓄積のためのシステムの規格化
- d. 言語資源の効果的な蓄積・利用のためのネットワーク構築
 - (1) アジア・アフリカ地域の研究機関との連携体制構築
 - (2) 国内外に散在する言語資源の相互連携ネットワーク構築
 - (3) 国内地方大学と国際的学術ネットワークをつなぐハブ形成
- e. 現地コミュニティに向けたアウトリーチ
 - (1) 現地コミュニティとの協働によるマルチメディア教材の開発
 - (2) それを用いた教育の活性化
- f. 循環型の言語研究体制モデルの普及と成果発信
 - (1) 少数言語・方言コミュニティへの、ニーズに対応した言語記録ノウハウの提供
 - (2) 共同研究の成果の国内外への発信
 - (3) 一般社会を対象とした、多言語共生社会の現状についての情報発信・啓蒙活動